

神奈川同窓会春の行事<能（黒塚）、狂言（附子）あらすじご案内

国立能楽堂「能楽鑑賞教室」カタログによる

能 黒塚

諸国行脚する山伏一行。奥州の安達が原（福島県二本松市）で行き暮れ、女の住む荒野の一軒家に宿を借ります。山伏のために、この世の無常を嘆きつつ糸車を廻して見せる女。夜も更け、薪を取りに行く間、自分の寝屋を覗かないようにと言われた山伏たちですが、従者が我慢できずにこっそり覗くと、そこには屍の山が。慌てて逃げ出す山伏たち。その後を女が鬼と化して襲いかかりますが、山伏に祈り伏せられて闇に消えてゆくのでした。 「黒塚」の

一場面



狂言 附子 (ブス)

主人は外出することになり、太郎冠者と次郎冠者の二人に留守番を言いつけます。桶に入った附子を置いておくのでよく番をするようにとのことですが、附子の方から吹く風に当たっても死んでしまうほどの猛毒だそうです。しかし、留守番している二人は附子が気になって仕方ありません。扇で仰ぎながら桶の中を見ると、黒いものがあります。見てしまったら太郎冠者は食べたくなくなってしまいます。思い切って一口食べてみると、なんと毒とは主人の真っ赤な嘘、それは砂糖でした。二人は競って食べ始め、つい夢中になって全て食べ尽くしてしまいます。さあ、主人が帰ってきて二人はどんな言い訳をするのでしょうか。

- ◆ 申込期間：4月1日（土）～4月7日（金）
- ◆ 申込方法：次のアドレスをctrl キーを押しながらクリックして「[申込フォーム](http://hatoh.net/mf/event/)」より申込下さい。 <http://hatoh.net/mf/event/>
また神奈川同窓会のホームページからも申込が出来ます。

勝山悌治 記